

# (十六) 山科本願寺・寺内町

戦乱で苦しむ民衆に生きる喜びを説いた蓮如は、この山科に「本願寺を中心とした寺内町」を築きました。この理想的な宗教都市は一四七八年から一五三二年に焼失するまで五十余年にわたり続きました。

山科本願寺の寺内町は、西野の大部分と東野の一部(山科川沿い)約八万m<sup>2</sup>を占めています。

応仁文明の乱が終わった翌年から始まつた本願寺の建立には、吉野か

ら川を遡って木材五〇本を運んだり、山科、近江、北陸から普請に加わり、多くの門徒衆が協力しました。そして、二年後には御影堂が、五年後には瓦葺の阿弥陀堂が完成しました。

山科本願寺は周囲を二重の土塁と濠で囲んだ三重構造になっています。第三郭目に、普請に関わった門徒で山科に留まり生活を続けた人や、吉崎御坊(福井県)などの他の地から新たに移住してきた人々、民衆が居住する寺内町が造られていきました。

民衆の中には、絵師や商人も含まれ、風呂屋もあったと伝えられています。

また、土塁と濠は、蓮如の晩年にはその六割程度ができるがつていて考えられています。(『本願寺史』)



『京都千二百年(上)』(著者 西川幸治 高橋徹 イラストレーション 穂積和夫)より。



98 山科本願寺南殿跡

一四八九年、蓮如上人隠居所として南殿が建立されました。築地、土塁、濠などが設けられました。



南殿幼稚園の南側からの写真です。



101 西御坊

西御坊本堂は、一七三二年、北山別院の旧堂を移築して造営され、聖水山舞楽寺といいます。

一五三六年、南殿の跡地に創建されました。境内に区民誇りの木(ソメイヨシノ)があります。



99 蓮如上人御指図井

水不足で困っていた音羽地区の人々に、蓮如上人の指図により清水が湧き出たという話が伝わっています。(『拾塵記』)

その後、兵火により焼失しましたが、南殿跡の遺構は良好に残り、二〇〇二(平成十四)年、「山科本願寺南殿跡附山科本願寺土墨跡」として国の史跡に指定されました。



96 山科中央公園 土墨跡  
正式名称は、淨土真宗本願寺派山科別院で、通称、西御坊または、西別院と呼ばれています。本堂正面に掲額の「松林山」は山科本願寺の山号です。

西御坊本堂(左)と中宗堂(右)  
1732年 山科に造営 1782年 本堂再建  
1787年 堂宇整備 1832年 中宗堂建立  
1884年 以後、西御坊に安置されることとなりました。



1872(明治5)年、境内の対面所にて開校した東野校跡。8年間ここで授業が行われました。いわば山階小学校のふるさとです。現在は駐車場となっています。

一五三六年、南殿の跡地に創建されました。蓮如上人忌が厳修されています。区内に区民誇りの木(イチヨウ)が境内にあります。



東御坊南門  
東御坊への参道は約130mにわたり両側、が桜並木でしたが、1985(昭和60)年ごろ、下水道整備のため撤去されました。

道中(福井県吉崎)よりの帰途)の立ち寄り地となっています。

毎年五月九日は、蓮如上人御影学院を境内に移転し、一九九八(平成一〇)年には境内に蓮如上人銅像が建立されました。



102 東御坊  
東御坊本堂は、一七三二年に土地を確保し、一七三六年、現在地に東本願寺の長福寺を移転して造営されました。正式名称は、「真宗大谷派山科別院長福寺」といいます。

一七八七年には境内に、南殿の旧址を移した茶室「陽水亭」が設置され、一八〇六年には本堂が修復されました。一九八一(昭和五六)年には大谷専修

学園を境内に移転し、一九九八(平成一〇)年には境内に蓮如上人銅像が建立されました。一九三四年(昭和9)年建立の蓮如上人銅像は戦時中に金属供出され、現在は台座の建立銅像。



95 蓮如上人御廟所  
一四九九年、八五歳で亡くなり、翌日荼毘にふされたその跡に御廟所が建立されて今日に至っています。御廟所域内には、区民誇りの木(クスノキ)があります。



96 山科中央公園 土墨跡

一四九九年、八五歳で亡くなり、翌日荼毘にふされたその跡に御廟所が建立されて今日に至っています。御廟所域内には、区民誇りの木(クスノキ)があります。

工場が長浜に移転し、翌年に山科中央公園となりました。工場では濠跡をプールに使用しておらず、移転後もしばらくプールの遊び場になっています。

この公園は毎年一月、区民まつりの会場としてござります。また園内に区民誇りの木(工ノキ)があります。

工場では濠跡をプールに使用しており、移転後もしばらくプールの遊び場になっています。

この公園は毎年一月、区民まつりの会場としてござります。また園内に区民誇りの木(工ノキ)があります。